評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1473400495
法人名	社会福祉法人 愛光会
事業所名	グループホーム みなみ
訪問調査日	平成21年4月10日
評価確定日	平成21年5月19日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 21年 4月 25日

【評価実施概要】

事業所番号	第1473400495号
法人名	社会福祉法人 愛光会
事業所名	グループホーム みなみ
所在地	横浜市瀬谷区阿久和南3-26-3 (電話) 045-369-3731

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成21年4月10日	評価確定日	平成21年5月19日

【情報提供票より】(平成 21年 2月 28日事務所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 10月 1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	19人	常勤 4人	非常勤 15人	常勤換算 4.7人

(2) 建物概要

建物構造	(木造)造り	
	2 階建ての	1,2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	35,000 円	
敷 金	150,000円			
保証金の有無 (入居一時金含む)	150,000円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	450 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要 (2月28日 現在)

利用者人数	15 名	男性	6 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	4 名	要支援2	名		
年齢	平均 87.4 歳	最低	76 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	横浜いずみ台病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「安全・安心・信頼」を基本理念に「一歩下がって後ろに居る事」をモットーに管理者・職員が一丸となって一人ひとりの気持ちを大切にできるケアを実践しています。事業所は畑に囲まれたのどかな場所にあり、建物全体がゆとりを持った設計になっており日当たり良好です。家族からも立地がよく精神的にも身体的にもゆとりできるとの声が多くあります。時折キジも姿を現し、利用者の楽しみとなっています。年1回の温泉旅行や四季折々の外出を大切にしています。また食事にもこだわりがあり、量より質を重視して旬の食材を利用し、手作りを徹底しています。法人本部がある特別養護老人ホーム「みなみの苑」は歩ける距離にあり夏祭りなど交流は盛んに行われ、本部主催の研修には多くの職員が参加しています。近隣には他のグループホームもあり、運営推進会議の際には共通の問題を話し合いサービスの向上に役立てています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善事項はありませんでしたが、運営推進会議の開催や重度化や終末期への取り組みを行ってきました。協力病院の医師の助言を受けながら家族・関係者と話し合いを重ねています。今年度は事業所で初めて看取りまで行いました。職員はOJTを主体に仕事を覚え、内部研修を実施しています。終末期に向けた対応は今後も引き続き課題としています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は評価の意義やねらいを理解しています。この評価を通じ管理者や職員が情報を共有して日々のサービスを見直し、質の向上につなげるよう取り組んでいます。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>年数回の地域包括支援センターでの運営推進会議や法人本部での2ヶ月に1回の会議では事業所の活動内容を報告し理解を得るようにしています。また地域のニーズを把握し地域との連携を取っています。自治会長・民生委員等との関係は良好です。民生委員との話から徘徊ネットワークへの助言を得た事もあります。終末期への取り組みも話し合われています。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>運営推進会議への参加と、年に1回の家族会を開催し意見・要望を聞いています。終末期に対する取り組みなど重点項目については時間をかけ話し合いを重ねています。提案された意見、要望等は、職員ミーティングで話し合い運営面に反映するように努めています。また、家族には毎月、金銭出納帳や居室担当が個人毎に発行する「みなみ通信」で行事内容や暮らしぶりを知らせています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会の一員として夏祭りや地域清掃などの行事にも積極的に参加することで、地域住民の事業所への理解が深まっています。隣に回覧板を持ってゆったり散歩や買い物で地域住民と利用者が顔なじみになり、会話を楽しんでいます。隣接する畑から収穫したばかりの野菜をもらったり、利用者がお礼にお菓子や渡す事もあります。近隣の幼稚園には七夕に呼ばれて訪問し、園児と交流しています。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「安全・安心・信頼」を基本に定めています。そして利用者一人ひとりの生命と尊厳と権利を尊重し穏やかな生活を送れるように支援し、地域福祉に貢献していくことが掲げられています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関・事務室に理念を掲示しています。入職時には管理者から説明があります。また毎日の様々な局面で、理念に沿ったサービスができているかを確認し、職員の意識の共有を図っています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として自治会に加入し、地域のお祭りや危険の無い範囲での清掃などの行事に参加しています。入居者と職員が散歩がてら一緒に回覧を届けています。隣接する畑を通じ地域住民と利用者が顔なじみになり、会話を楽しんでいます。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価のねらいや活用方法をよく理解し、職員にも十分説明し理解を得ています。前回の外部評価の内容を検討し、今後のサービスの向上に活かすように努めています。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターと法人本部で開催されています。地域の民生委員・自治会長・包括支援センター職員等の参加状況は良好です。徘徊ネットワーク等に関しては民生委員から出た意見を参考にしてサービス向上につなげた例もあります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターや区役所の高齢支援担当者にケアの取り組みなどについて相談し、理解と協力を得ながらサービスの質の向上に努めています。ガンの終末期を迎えた方について相談しホスピス入所に至った例もあります。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が来所されたおりにはその都度丁寧に健康状態や暮らしぶりなどを報告しています。月に1回は居室担当が一人ひとりに発行する「みなみ通信」や写真と一緒に金銭の収支を含めた報告をしています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族の参加を呼びかけ、意見を聞いています。その中で重度化や終末期への取り組みを始めます。議題として提起し、活発な意見交換をしています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員と良く話し合い、職員が働きやすい職場環境になるように努めて、定着率アップを目指しています。またチームケアを重視し、職員の異動に際しては細心の注意を払い、利用者が不安を感じないように配慮しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の質の確保と育成が大事であると理解しています。職員それぞれと話し合い個別に適した研修(中堅職員や新人等)を勧めています。また法人内や、グループホーム連絡会の研修など外部研修については案内を事務室に置き、全職員に周知し参加を促しています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に定期的に参加し、同業者との情報交換を行っています。近隣には同じグループホームが多くあり運営推進会議などで交流し、意見交換を行う中でサービス向上への気付きを得るように努めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に職員が必ず家庭や病院を訪問し、利用者や家族と面談をしてアセスメントをし、ニーズを把握するように努めています。また、事業所を見学し雰囲気を知ってもらおう機会をもうけています。利用者や家族の要望や思いに丁寧に対応し、本人が安心して入居できるようにしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩という考えを職員は共有していません。利用者に対して常に尊敬の念を抱き、お互いに思いやりを持って一緒に支え合って暮らすように努めています。料理は味見して貰い、ジャガイモの皮むき、食事の盛りつけを一緒に行い、ぬかみそ漬けや梅干作りを教えてもらっています。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や意向は、本人や家族との日常的な会話から汲み取っていますが、意思の伝達が困難な方の場合には、家族の意向や利用者本人の表情や身振り等から思いを汲み取るように努めています。そして把握した利用者の思いや意向は、申し送りやスタッフ会議で話し合い、全職員の共有化を図っています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の特徴は、立案から実行・評価までをカンファレンスと上手に連動させていることです。生活援助計画書には、目標の設定や具体的支援内容を明示し、個々の支援内容に応じて活動期間を1、3、6ヶ月、1年と定めて取り組んでいます。そして、期間終了時のカンファレンスで各々の評価を行っています。		家族のサインや捺印を頂いていない計画書が散見されました。利用者の現状に沿って作成されているととも判り易い介護計画書ですので、漏れなく全家族に説明・報告され、了承される事が期待されます。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画期間に応じた見直しの他、毎月のカンファレンスや担当者会議で、見直しの必要が生じたと判断された場合は、計画期間内でも、現状に沿って計画の見直しが行われています。また、生活援助計画書による支援項目は、活動期間毎の短期見直しとして、支援の結果どのようになったかを評価し、次の計画に繋げています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関以外のかかりつけ医への受診では、家族の希望を受け入れ、送迎や付き添い支援を行っています。また、利用者全員参加の1泊旅行など小旅行を低負担で計画するなど柔軟な支援を行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームから徒歩15分の近距離に、月2回の往診や訪問看護を受けている協力医療機関がありますが、利用者や家族が従来のかかりつけ医の受診を希望する場合には、送迎や職員の付き添い等の要請にも応じる支援を行っています。また、かかりつけ医との医療情報の共有化も家族や職員を通して図られています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	まだ方針を打ち出されてはませんが、終末期への取り組みは、協力医療機関からも勧められ、全面的な協力を約束されています。既にホームで看取ったケースもあり、利用者の中には看取りを希望されている方もいます。職員との話し合いもされ、終末期に向けた取り組みと、環境は整えられつつあります。		協力医療機関が協力してくれるなど環境に恵まれていると思われず。既に希望者も居ることを勘案し早期に「看取りに関する指針」を整備し、終末期に向けた方針を打ち出すことが期待されます。また、職員教育に「看取りの介護の研修」を受講させるなど、体制を整えることが期待されます。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日頃、利用者の誇りやプライバシーを損ねない為、言葉遣いに注意することを会議や申送りで話し合っています。また、個人情報保護を目的に面会者に面会票の記入を求めています。面会票は面会者の個人情報保護の為に単票となっています。職員は入所時、個人情報等に関する守秘義務の誓約書を提出しています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしは、利用者のペースを優先に、天候や利用者の体調、希望に合わせて支援しています。庭へは、リビングや居室からの出入が自由で、天気の良い日は外に出て外気に接したり、洗濯物を干す仕事を手伝ったりしています。利用者が散歩に行きたい時には、一緒に出掛けるようにしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事には特にこだわりを持ち、量は少なくとも質の良い食材の納入を食材業者に指示しています。業者が作成したメニューも利用者の要望やその日の天候で変更することがあります。また、月1回の外食や誕生会などの行事食で利用者に楽しんで貰ったり、天気の良い日には庭での食事を楽しんで貰うこともあります。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴専用の車椅子で浴槽に入れるリフト式の入浴設備があります。重度化した利用者も安心して安全に浴槽で温まる事が出来るようになっています。2階は入浴時間や入浴日等を決めています。1階は24時間自動で湯温管理された浴槽もあり、1日中いつでも入浴できるサービスが提供されています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活での機能訓練を兼ね、食事時の配膳や後片付け、庭での洗濯物干し等を利用者の役割として支援しています。農作業の経験者にはホームの畑で力を発揮して貰っています。また、系列特養の介護車両で、全員参加の花見やドライブを楽しんだり、1泊の小旅行を計画するなど気晴らしの支援も行っています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者との買い物や散歩は日常的に行われています。また月に1～2回は、外食に出掛けるなどの支援をしています。季節によっては、近隣のボランティアの方に管理をお願いしているホームの畑に、野菜や花を植えたり、収穫を楽しんだりと屋外作業も機会を見つけてこまめに支援しています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門は、外部者の侵入を危惧して施錠していますが、玄関は遅番が帰るまで鍵をかけません。エレベーターや階段ドア、リビングや居室のガラス戸など鍵をかけない取り組みをしています。これは、見守りの徹底と外へ出ようとする利用者がいれば、制止するのではなく一緒に歩いて行くような工夫で可能にしています。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難通路となる廊下は幅広く確保され、リビングや居室からも庭やベランダへ非難できるようになっています。今後義務付けられるスプリンクラーの設置計画も具体的に進められています。また、年2回の消防訓練を行ったり、立ち入り検査や講習等を受けています。近くに系列の特養があり、緊急時の協力も期待できます。		火災訓練などの計画書は、その都度作成して、実施後は反省点を含めた実施記録を残されることが期待されます。また、災害対策マニュアルの作成や職員の災害時の役割分担表、緊急連絡網、避難場所などの明確化を図り、体制を整備されることが期待されます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>メニューやカロリー計算は食材業者に依頼しており、業者には利用者の嗜好や禁止食材などの情報を伝え、メニューに反映されるよう連携を取っています。食事のとれない利用者の為に、高カロリーのゼリーなどが用意されています。水分確保は1日600～700ccを目安とし、カウントは必要とする対象者に絞っています。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の空間は、広い造りでゆったりとしていて、とても居心地の良いスペースになっています。特にトイレや浴室は非常に広く、職員にとっては介助し易い空間であり、利用者にとっても気持ち良く使用できる空間です。館内は、色彩や飾りつけも落ち着きがあり、テレビ等の音量にも気を配った環境となっています。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は、入り口に職員と一緒に作った温かみのある名札が掛けられています。居室の中は、私物の持ち込み品や飾り付けが少なく、広々としています。もうひと工夫することで、利用者の生活臭が感じられ居心地もさらに良くなっていくと思います。</p>		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人 グループホームみなみ
(ユニット名)	1階 輝
所在地 (県・市町村名)	横浜市瀬谷区阿久和南3-26-3
記入者名 (管理者)	菊地 祐介 (介護者)
記入日	平成 21 年 3 月 3 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
☐	地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の信頼関係を基に理念を作り上げ、職員は理解し日々の業務に取り組んでいます。		
☐	理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員一人ひとりに理念を配布し、話し合いを持ち共有化に努めています。		
☐	家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	皆様には説明しています。訪れた方にも分かりやすいように正面玄関に掲示してあります。		
2. 地域との支えあい				
☐	隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホーム前でお会いすればどなたにも挨拶致します。近所の方に野菜、花を頂くことがあります。		
☐	地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の清掃活動、お祭り、バザーなどに参加しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	自治会に入っていますが役立つ事に取り組んでいません。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価は見られる状態です。改善は常に話し合いを持ち、取り組んでいます。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の記録を見て、他施設を参考にしています。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	研修に参加したり、役所の掲示板を見て、参考になる事を探します。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在は家族対応です。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を受けていますし、掲示板に関係資料が提示されていますのでスタッフ同士が互いに注意しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に契約書、重要事項等を説明して、理解、納得の上でサインを頂いています。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置してありますが、投函されるのは困難ですので散歩、買い物時に話を聞く機会を作ります。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、明細書と共に写真を添えて近況報告を行っています。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱の設置、並びに面会に来所された際に意見等をお話して頂きます。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>フロア会議での実施。職員が自らその月のテーマを考え発表します。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要な勤務体制はできています。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>古い職員が多いです。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じた研修は管理者から声が掛かりますので受けません。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワーク、勉強会はありません。	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人の親睦会、フロア事の食事会、お茶会があります。	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	意欲を持って働けるように努力しています。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談などで様子やお話を聞く事ができます。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	電話や来られた時などにお話し誤解の無いように努めています。、	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々に応じて、医師、理学療法士、ボランティアさんの対応します。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者様のご理解、納得が得られればよいのですが無理な時はご家族と話し合いをし、理解、納得して頂きます。職員も他利用者様との間を雰囲気作りに努力します。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事では教えて頂く事も多く、利用者様の体験談等を聞かせてもらっています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは常に連絡し、良い関係が保てるようにしております。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族で過せる時間を大事にしています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの知人、友人等に面会に来て頂けるように声を掛けさせて頂いています。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	リビング(共有場)にて、レクや仕事を実地しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院等で退去なされた方は時間のある限り面会に行き、家族に連絡いたします。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	よく話を聞く機会を設けています。又、意思疎通の難しい入居者様の場合でも、今までの暮らし方を尊重しています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人情報に触れない程度に把握しています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケース記録の充実、毎日の健康チェック表を記入しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日の申し送り、家族との話し合いで何度もカンファレンスを行なって介護計画を作成しています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画期間の間に変化があれば、家族共話し合い見直します。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録の記入、又気づいた事等を記入するシートを用意しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人、家族の要望は状況に応じて対応しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	理美容、ボランティア等、社会資源を積極的に活用しています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他施設がどのような支援をしているかは気になりますし、よい所は自ホームで受け入れたいと思っています。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ボランティア、催し物等の情報提供を頂いています。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院との関係、往診、訪問看護を受けていますが、必要に応じて紹介状を頂き、家族と共に専門病院に受診します。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医師は居られますので、必要に応じて受診を行なっています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	連係病院の看護師が月、2会来られます。系列のグループホームにもいます。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	連係病院は近いので毎日、様子を見に行き医師、看護師の話しを聞き家族に連絡します。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状態変化があれば受診、家族にも連絡を行います。その後は様子見ながら医師と家族と連絡を取り合う事にしていきます。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医師、家族と連絡取り合い、家族やご本人が納得されるように行なっています。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご本人の意思を尊重して、ご家族、ケアマネと話し合い、情報交換を行ないます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>記録等は名前を記載せず、イニシアルにしています。会議や機会ごとに言葉遣いの徹底を呼びかけています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>立位されて危なくないように見守り、外食のメニューも自身で決めるなど意思を尊重した支援を行なっています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者様の前に立つのではなく、後ろから見守る事を基本としています。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>訪問理美容を利用していますが希望があれば、行き付けのお店へお連れしています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の盛り付けや食器拭き、可能の方には食材を切る事もお願いしています。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>店舗が近くにありますので買い物に行き、お好きの物を買われ好きな時間に召上っております。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	オムツは最後の手段とし、その方の排泄の時間やパターンを把握してトイレ誘導いたします。		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	自立の方は朝、夕、お好きな時間に入浴されてます。介助が必要な方は体調の様子見ながら、日中に入らせていただきます。		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	夜間眠れない方は日中適度の運動、夕食まで起きていられない方はお昼寝していただくなど、個々に調節しています。又、夜間時の消灯は利用者様の消灯時間に合わせます。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	できる事、できない事を把握し、できる事を最大限に活かした役割を提供しています。		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	買い物の際、可能であれば、お金の計算、支払いもして貰っています。		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	外食に月1～2回は出かけます。買い物や散歩は日常的に実施しています。		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	季節ごとに最適な場所への外出、又一泊旅行を実施しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置して利用者様は好きな時に使用していらっしゃいます。又、必要な方には操作を代行しています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族等馴染みの方達へ来所してもらえるように声掛けします。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	何が拘束に当たるか当たらないかの資料を掲示板に掲出しています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	見守りを徹底し、外へ出ようとする利用者様が居れば、静止するのではなく一緒について行くようにしています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜、どこで過せれているかプライバシーに配慮しながら見守っています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者様の薬や洗剤等の薬品類は鍵のかかる戸棚等に保管しています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	状態に応じたカンファレンスを行い、事故防止に努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	初期対応のマニュアルを掲出しています。又応急処置の研修を行なっています。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に防災訓練を実施しています。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族、所長、管理者と話し合います。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	気づいた事は必ず記録に残し、申し送りをするよう徹底しています。変化に気づく目を養うようにしています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法などについては個人のファイルに綴ってあるのでいつでも見ることはできます。定時薬ではないときは業務日誌に記載し、口頭で伝え、副作用に注意します。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分を多めに摂っていただき、レクや散歩で体を動かす事を行なっています。できるだけ薬に頼らない排便を心がけています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの重要性を理解し、声掛けを行なっています。又必要な方にはスタッフがいきます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事以外にもお茶の時間を設け積極的な水分摂取に努めています。その方の好みに合わせて(コーヒー、日本茶等)提供しています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	スタッフは年2回の健康検診、インフルエンザを受けています。手洗い、うがいは常に心がけていますし、消毒薬も洗面所に置いてあります。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理表の元に毎日調理器具等を消毒します。お絞りは利用者様が丁寧に洗ってくださるのを温熱機に入れます。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の花や飾り物を置き、明るい環境づくりを実施しています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは皆様と一緒に作った作品、季節感を表す絵、お花を飾ります。耳の遠い方がいられますが、テレビの音は皆様に迷惑にならないようにその都度工夫します。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブル、椅子、ソファを配置し、外の庭にはベンチ、テーブルを置いて天気の良い日は日光浴などをして過していただきます。		

項 目		(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具等を持ち込んでいただき、馴染みのある空間で過せるよう配慮しています。	
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は24時間実施し、温度、湿度計を設置し定期的に確認しています。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、段差の解消、廊下や居室は広々としていますので車椅子も楽に使用できます。	
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個人を尊重、自立できるように何度もカンファレンスを繰り返して一番良い方法を選んで実践しています。	
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に自由に出入れますので、ベンチ、テーブル等を置き、日光浴やボール遊び、歌を唄い楽しんでいます。	

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

食に拘りがあります。手作りを強調し、出汁も煮干、鰹節を使用します。外出は皆様の希望を取り入れ、遠方や一泊旅行を致します。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人愛好会 グループホームみなみ
(ユニット名)	2階 虹
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市瀬谷区阿久和南3 - 26 - 3
記入者名 (管理者)	廣田 三代 (管理者)
記入日	平成 21 年 2 月 25 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員は理念を理解して、日々の業務に取り組んでおります。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者が日常的に職員との話し合いをし、理念も共有化に勤めています。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には説明し、理解して頂けるように努力しています。又、訪れた方にも目に付きやすい正面玄関、スタッフルームにも掲示されています。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職員、利用者様もご近所の方に気軽に声掛けします。利用者様は隣の畑に居られる方に御自分のお茶菓子をお持ちになり、お話しされています。収穫に野菜、お花を頂いたり、たくさん煮物を作ったからと持ってきてくださるので皆様で召上ります。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入っており、回覧板は職員と利用者様とで散歩がてら届けます。以前、ゴミ集めに出かけましたが、地域の方が危ないとの声がありましたので夏祭り等、広い場所の場合は参加いたします。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>職員同士で話し合いすることはありませんでしたが、ご近所の方に相談をされた事はありますので、私共でできる範囲の事はアドバイスした事はございます。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価は意識しております。又気になる場所ですので改善に努力したいと思っております。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>愛好会3ヶ所での推進会ですが報告、意見公開を行っております。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域ケアセンターに参加できる催し物を探しに行きますし、あちらからも声掛けしていただきます。問題ごとは役所に相談しに行くこともあります。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>講習を受け、勉強もいたしました。現在はご家族が対応されております。今後、必要の方が居られましたら支援いたします。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>講習は受け、会議で話し合いを致します。何人かは危険防止の為にベランダ側のドアロックが必要な方が居られますがご家族様から許可を頂いております。</p>		

項 目		(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に説明いたしますがご家族様の中には持って帰られ、後日持ってこられ方、息子様が理解なさっても奥様が納得できないからお電話を頂く事もありましたのでご説明した事もありました。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入浴、散歩、お茶時間などに個々にお話しできる時間を作っています。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月「みなみ通信」を発行しております。皆様の近況報告、1ヶ月の明細書、写真を添えて送っております。健康状態はいつもと様子が違う場合はお電話で連絡を取り合うことしております。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関受付台に苦情箱を設置しております。苦情がありましたら、会議を行い、反省し、安心して生活できるように話し合います。又、家族会、お誕生会など家族と話し合う機会がございます。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回のミーティング、時には所長も加わって意見交換をいたします。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務体制はできています。突発的な事故や行事などに快く勤務に付いてくれますので職員が無理なく、希望に添えるようなシフトにしています。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>退職者は最小限に抑えたいと思っております。利用者様にもよりますがさよならを伝えられない方がおられるので職員は目配せ、小声で挨拶します。退職者には「さよなら」ではなく「又来ますから」で伝えてあります。</p>	

項目		(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修、講修は出られるように声掛けしております。シフトもそれなりに対応いたします。	スタッフ室に掲示されていますので、自ら参加を希望されるように取り組みたいと思っております。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議等で他施設の話の聞いたり、見学させて頂く事で勉強にもなり自施設を振り返り、質の向上に取り組んでおります。	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人主催の忘年会、ユニット事に食事会、お茶会や個別にお話を聞く事もあります。	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	働きやすく、希望を取り入れたシフトにしております。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人と面談し、お話を伺う機会は必ず作ります。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人にお会いする前にご家族から伺い、又改めてご家族とお話致します。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療関係、理学療法士、ボランティア等、必要に応じた対応に努力しております。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	皆様と馴染めるように職員が間に入り雰囲気作り致しますが何もかも変えるのではなく、無理なく過されるように支援いたします。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者様から教わる事はたくさんあります。古くからの慣わし、料理に関わる事など、仕上がったときは手を取って喜び会います。具合が悪い時は皆様、一緒に心配されます。良い関係が出来上がっていると思っています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	長いお付き合いをさせて頂いているご家族が多いです。嫁姑の関係で悩み事の相談もありますが深入りしないようにしております。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族だけで過せる時間を大事にしております。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	皆様の若い時代、遊んだ場所、旅行の話しを聞き、利用者様の話題づくりになっています。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	新入居者様の場合は様子見ながら、職員が話し合いを何度も持ち、周りの関係を見ながらお席を決めます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	近く入院されておられる方は面会に伺います。お一人になられた方には時々お電話致します。		
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族と話し合い、希望に添えるように努力しております。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人情報に触れない程度に把握いたします。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	起床時の体調チェック、お顔の表情、立ち振る舞いで把握できるように努めて居ります。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の申し送りやカンファレンスを行い、家族共話し合い、介護計画を作ります。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に変化があれば見直します。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフに常々個人記録は大事ですから些細の事でも、申し送りし、記録に残す事を伝えてあります。又、カンファレンス、介護計画に役立てています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その都度、状況に応じて対応致します。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会で民生委員、教育機関、消防分団大会出場の為に練習参加。月1回のボランティアさんにフラダンス、カラオケをお願いしています。		現在1日中歩かれています方がいらっしゃいます。その方は塀を乗り越えるのがお好きで、1ヶ月で3回程大捜索致しましたが1回は警察に連絡致しましたが大事に至らずに済みましたが今後も分からないのでご協力をお願いする事があると思います。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	連絡取り合い、利用させて頂いております。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	講習参加、ボランティアに関する情報を取り入れています。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院がございすが病状によってはご家族と話し合い、専門医を紹介して頂き、受診します。医療面では常に家族と連絡取り合います。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院もごさいますし、精神内科に受診や相談しております。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力病院から、月2回Drの往診、2回の訪問看護を受けています。他にケアマネ兼看護師が居ります。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医師に状態を家族共に伺います。状態を見ながら、家族と連絡取り合います。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホーム内で終末期を迎えられた方もいらっしゃいます。利用者様の様態は申し送りいたしますが、いつもと様子がおかしいと感じた時から、医師、ご家族との連絡は頻繁に致します。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	状態に変化が見られれば医師の診断を仰ぎ、家族も医師から、状況説明を受けられるように行います。医師との連絡は常に致します。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居前も退去時も家族と十分話し合いを持ち理解、納得して頂いています。ケアマネさんの情報交換も致しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>電話使用時、家族との面会等は職員は席を外します。記録はイニシアル使用です。個人情報については職員は一筆書いてありますがミーティングで話し合いを行ないます。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>外食はメニューをご覧になり、ご自分で決めて頂きます。遠慮されてご本心を中々おっしゃらない方には申し送り、話し合いを何度も重ねて、心を開いて頂けるように努力しています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>大きな行事以外は決まりごとを行なわないようにしていますので、その日の天候、体調、皆様のご希望に合わせて過ごしております。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>理美容はご本人が行きたい所にお供いたします。車椅子の方は訪問理美容に来て頂いています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>お話ししながら楽しく召上って頂く為にいくつかのグループ分を致しましたがお茶の時間などはお好きなところで過ごされていらっやいます。おはぎ、手作りうどん、すいとんのように御自分にも分かるような献立は職員が教わりながら支度します。配食、配膳、食器片付けは男性も気持ちよくして下さいます。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お買い物でお好きな物を買われてお好きな時間に召上っておられますし、冷蔵庫にお預かりもします。Drの許可もありますので毎晩、焼酎のお湯割を楽しまれておられる方もいらっやいます。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	階ごとに4ヶ所のトイレがありますので重なる事はございません。おむつは使用の方は個人個人で違いがございますのでその方に合う方法で行なっています。時間で誘導するのではなく立位されたり、居室から出てこられた時に誘導したり、御自分で「トイレ、トイレ」といわれる方にはすぐにご一緒にいたします。散歩、食事前にもお声掛け致します。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日も時間も決まっておりません。ご本人希望で毎日、入浴される方もいらっしゃいます。ただ油分が抜けてしまうので毎日石鹸を使用するのは止めましょうとお伝えしております。行事風呂(ゆず湯、菖蒲湯)入浴剤などで楽しむこともございます。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	朝、バイタル、オムツなどの健康チェックは致しますがご本人の希望であれば、無理に起こしません。居室の温度調節、水分補給、休まれ時は1枚少なめになさるように声掛けや、見回り等を行っております。		
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入所前の生活状況、現状からその方にあった役割、お台所、掃除、洗濯等をなさいます。他にお買い物、外食、散歩、ドライブにお誘いします。畑に作物の収穫に出掛ける事もございます。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が金銭管理をなさっておられる方もいらっしゃいます。買い物に行かれた時に職員が預かり金からお出しする場合、前もっていくらかお渡して、御自分で計算されながらお買い物なさる時もございます。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気の良い日に全員に庭に出られるようにお声掛けします。個人に合わせて、30分の散歩、1日5時間のジョギングを致します。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族との外泊、外出は自由です。ホームではイチゴ摘み、日帰り温泉とミカン狩りは年中行事になっております。他に外食、健康ランド、昨年は湯河原温泉に一泊で出かけました。皆様のご希望に添えるように心がけております。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	先方様からのお電話に利用者様がお出になるまで時間が掛かりますので、相手の方にその旨をお伝えして掛け直していただくようお願い致します。公衆電話は自由にお使いになさっております。お手紙の投函も職員が帰り際に致します。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間、人数の制限もございませんのでいつでも、自由に来て頂くようお願いしております。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全、安心、自由に生活して頂けるように常日頃から話し合いを持っています。職員の一人ひとりが拘束を考えていません。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門は施錠してありますが玄関は遅勤職員が帰った後に鍵をかけます。居室のベランダ側のドアロックも危険の方はご家族様に許可を頂いております。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しながらでも、どこにいらっしゃるかは把握できるように職員同士が声掛けして行動する事しております。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者様がはさみ等が必要ならば、用途に応じてお出しします。自立されている方でも側で様子伺いしております。洗剤、薬品等は施錠の倉庫に入っています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒防止はご家族様に許可を頂き、居室ドアに風鈴を付けたり、靴に鈴を付けて対応しています。又、トイレに行かれる時は職員が直に対応しますし、ご本人にも声を掛けて下さるようお願いしております。薬は必ず手渡し、服薬を確認します。		

項 目		(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	古い職員は年1回は救命処置の訓練は受けています。実際に救急車が来られるまで救命処置を行なった事が何回がありました。	新職員が何人かおりますので早くに受けられるように致したいと思います。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の消防訓練や立ち入り検査、講習などを受けておりますし職員が消防訓練大会に参加しています。近くに特養みなみの苑もございますので協力はして頂けます。	
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	近況を面会時にお話致しますが緊急やリスクが高い方に電話でその都度起きた事を連絡いたします。そして今後起こりえる場合はDr、ご家族様と話し合い理解、納得して頂いております。場合によっては文章をお渡しております。	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	起床時にバイタル、体温の健康チェックを致します。異変時にはマニュアルもありますが、状況判断し臨機応変に対応するように常日頃から話し合いをしております。	
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方個人記録にファイルされて、いつでも見ることができますし、事務所に掲示されています。薬の量や変わった時の副作用、様子を必ず個人記録に記載したり、申し送りなどで話し合い、Drに報告し指示を仰ぎます。	
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	Drの指示で内服を投与されておりますが、朝の体操、日中の天候が良い日はお散歩で体を動かして頂きます。お茶の時間以外にも水分摂取できるようにお声がけします。食事も生野菜より温野菜に心がけ果物を召上って頂くようにしております。暑い日には南向き居室の方には特に水分を多めに取られるようにお声掛けします。	
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後は必ず、口腔ケアを致します。自立の方も最後の仕上げを拝見し、舌洗浄しポリデント使用までを確認を行ないます。お2人の方は毎月1回洗浄の為に歯科受診に行かれます。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人お一人の起床時の健康状態と食事摂取量の確認で献立変更したりします。水分摂取が少ない方にはゼリー状、ポカリを氷にするなど、いろいろ試みを行なっております。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	うがい、手洗いを実行、注意をしていたのに1階で3人の利用者様がインフルエンザに罹ってしまわれました。2階の方に外出や1階にも下りられない事、面会謝絶などを説明して納得して頂きました。		職員の体調管理を徹底的に行ないたいと思っています。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	席に着かれてから、お食事をお出しするように心がけております。又調理後2時間たったお膳は処分し、次の食事まで間隔が無いものですからそれなりの軽い食事を用意いたします。食材屋さんに量より質で常日頃からお願いしております。包丁、まな板、ふきん、その日に使用した物は夜勤者がハイター消毒致します。		
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は出入り自由です。ホームの周りで会われた方にはお付き合いができるような声掛けでご挨拶いたします。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日捲りカレンダー、月替わりの壁掛けなどは利用者様と一緒に手作りして楽しんでいます。季節感を感じられるように生花を切らず事の無いようにしております、又植木鉢や生花のお水は利用者様がなさせていただきます。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室とリビングを自由に移動されていらっしゃるし、たまには居室で女性同士でお茶のみ会をされています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	入所時に今迄の使い慣れた物を持ってこられる事、又生活 に慣れてから揃えられる事、ホームの物で利用できるの であればお貸しできる事などをお話しております。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	トイレ、廊下、リビングの換気扇は常に使用しています。排尿 のオムツは1ヶ所に置きますが消臭剤を使用し、早めに外部 に出すようにしています。リビングが南向きで暑いので食事 の前後に空気の入替えしますが暖かい日は窓を全開にし ております。又南側の居室は温度調節をまめに致します。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	廊下、トイレは手すりがあります。居室はナースコール付きで すので説明はしておりますが転倒されやすい方には職員が 見守り致します。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	洗濯物を干したり、たたむ事。おしぼりのたたみ、台所の仕事 など、それぞれが御自分の仕事と思い、率先してなさってお られます。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	玄関は施錠されておりませんので、いつでも自由に庭に出る 事ができます。お天気の良い日はお茶のみ、食事など致しま す。ベランダにはお花を置かれてご自分で管理されて居られ る方もいらっしゃいます。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

全員参加の春、秋の遠出は恒例になっておりますが、一泊旅行も加えられるようにしたいと思っております。どなたにも意志がございますので御自分で決められるのが一番良いと思っておりますのでスタッフが先回りしないように見守りを大事にしています。ただ、這いずり、尻ずりはご家族様に理解、納得できるように説明しています。食にも拘りがあります。旬の物を召上る、量より質を大事に、手作り、皆様と一緒にうどん、おはぎ、御餅、梅干、切り干し大根等などです。お刺身などの生ものも多く召上って頂いております。